

日本写真印刷株式会社
「2017年3月期第1四半期決算説明会・カンファレンス」
質疑応答の概要
(2016年8月5日開催)

Q1. 第1四半期の設備投資・減価償却・研究開発費の実績は？

A1. 下表のとおり。

	2017年3月期 第1四半期実績
設備投資額	約 6.5 億円
減価償却費	約 19 億円
研究開発費	約 6 億円

Q2. 産業資材事業の用途別の状況について説明してほしい。

A2. 年間で捉えれば期初の想定と変わっていない。ノートパソコンは減少トレンド、携帯電話は今期は需要が高まる見込み、家電は堅調に推移。自動車は次年度の売上高 200 億円の目標は変わらない。

Q3. 第1四半期は情報コミュニケーション事業の営業利益が赤字に転落しているが、この要因は？

A3. 第1四半期は例年、季節要因により需要が低迷する。しかし、事業の損益分岐点は改善しつつあり、第2四半期以降、需要が増加すれば利益が出せるものと考えている。

Q4. 2016年4月から開始した情報コミュニケーション事業の共同印刷との生産提携は、問題なく進捗しているか？

A4. 第1四半期の滑り出しは順調。

Q5. Graphic Controls グループの買収に至った経緯は？

A5. 当社では、第5次中期経営計画に沿って、事業ポートフォリオの組み換え・バランス経営の観点から、安定した成長の見込める市場への進出を目指している。医療・ヘルスケア分野にはかねてより注目しており、当社が主体的に調査・研究を進めてきた。

Q6. Graphic Controls グループの買収によって第5次中期経営計画で設定している M&A 予算 350 億円
の大半を使用したことになるが、今後も M&A はあり得るか？

A6. 2015年8月に実施した蒸着紙メーカーAR Metallizing の買収および今回の買収によって、当社が
目指している「事業ポートフォリオの組み換え」はその基盤が整ったものと考えている。第5次中期経営計
画における M&A 予算の観点から、今回のような大型の買収案件は一巡したと考える。

以上